



幸田リスク研究センター客員教授



丹羽伊藤忠商事会長

二大講義

開講される

七月八日(木)、記念すべき講義が開講された。「二大講義」と名づけられた本講義の講師は、伊藤忠商事株式会社社長、丹羽宇一郎氏と経済学部リスク研究センター客員教授で作家の幸田真音(こうだまいん)氏である。宮本憲一学長による講師の紹介のあとお二人の講義が始まった。

ている。

幸田氏は、「日本国債」、「藍色のベンチャー」など経済関係の著作活動のみならず政府の各種審議委員やテレビ等各種コメンテーターとして現代を代表する作家であるが、七月一日より本学部リスク研究センター客員教授に着任された。

最初に幸田客員教授による講義が行われた。

幸田客員教授は、金融「テラ時代の経験から、日本人のリスク感の話」をされ、現在の日本人にはリスクをとる(take risk)という感覚が薄く、むしろリスクを冒すという認識が多いということとを述べられた。横並びで保守的な判断が、チャンスを逸するということだ。つまり、リスクをとるとは危険を冒すことではなくチャンスを逃さないこと(Management)に他ならない。世の中がグローバル化する今、これからは日本人もリスクを積極的にとっていく必要を強調された。学生に対しては果敢にリスク(チャンス)に向かっていく意識を養ってほしいと呼びかけられた。

丹羽会長の講義では、自らの経験から学生時代に会得すべきことと、どういう人間であるべきか、ということを鮮然に語られた。経営実践での重要な能力は、変化の中の無変化、無変化の中の変化を読み取る力をつけること、すなわち「暗

黙知(現場において体に覚えること)「仕事」である。そのために特別な方法はなく、基礎力が重要であると述べられた。それはすなわち「読み・書き・そろばん」ができるようになる」という基本に他ならない。学生時代にはそのような基礎的な能力を養うことが必要だということを強調された。

当日は、あまりの盛況に二十四番講義室(定員二二一名)に入りきれなかった学生や教職員のために急遽ビデオ中継を準備し、十四番教室にライブ中継をおこなった。技術的な問題を滞りなく解決してくださった教務課教務係の諸職員に感謝いたします。

竹村 正明(経済学部助教授)

